

越前町議会・令和4年6月定例会一般質問【時田和一良議員】

(令和4年6月8日 午前10時33分 開始)

○2番(時田和一良君) 議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

最近、DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉をよく耳にします。もともとは、2004年にスウェーデンの大学の教授が提唱された概念で、直訳すればデジタル変換という意味ですが、進化したデジタル技術を浸透させることで、人々の生活をよりよいものに変革することを指すそうです。

現在、生活、産業、行政など様々な分野でDXが進められている中、今日は行政のDXについて話をさせていただきます。

2021年12月、デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針が閣議決定され、デジタルガバメント実行計画並びに自治体デジタルトランスフォーメーション推進計画を策定しました。

越前町においても、本年4月よりDX推進室が設置されました。国によるDX推進手順などもあるようですが、現在の状況を教えていただきたいと思います。

○議長(笠原秀樹君) 総務理事。

○総務理事(杉本恭伸君) それでは、時田議員のご質問にお答えいたします。

国は、社会全体のデジタル化を進め、その基盤を構築するために、デジタルガバメント実行計画を策定しております。実行計画では、利用者目線の行政サービスを提供し、すぐに使えて、簡単で便利な行政サービスを最初から最後までデジタルで完結させるため、国の行政手続を原則オンライン化することとしております。

また、自治体DX推進計画では、令和7年度までに、自治体が使用する住民票などの住民情報や固定資産税などの税情報、児童手当などの福祉情報、18業務について、国の策定する標準仕様に準拠したシステムへ移行することとなっております。

また、今年度末までに妊娠届出や児童手当の現況届など27手続きについて、住民がマイナンバーカードを用いてのオンライン申請を可能にすることとなっております。

町では、これら業務手続きのオンライン化については、18業務は丹南広域組合と、27手続きは福井県電子自治体推進協議会と連携し、国の計画に遅れることなく整備を進めてまいります。

○議長(笠原秀樹君) 時田和一良君。

○2番(時田和一良君) 先に述べました国による自治体のDX推進計画を見ますと、まずは自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して住民の利便性を向上させる、デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていく、この2点を進めることが重要だと示されています。

越前町においても、今年度、いろんな部門でこのことについて予算化がされていますが、具体的にはどのようなことが変わっていくのでしょうか、お願いいたします。

○議長(笠原秀樹君) 総務理事。

○総務理事(杉本恭伸君) まず、職員の業務効率化として、職員のオンライン会議やペーパーレス会議の推進、会議録支援ツールの音声認識機能を利用した会議録の作

成、職員が現場に行かずに除雪作業状況が確認できるGPS搭載の除雪車の活用などにより、職員の業務効率化を図ります。

次に、町民の皆様に対しましては、先ほど答弁いたしました27手続きについては、次年度以降、役場の窓口にお越しいただくことなく、オンラインで各種届出や申請が行えるようになっていきます。

今回上程いたしました押印の見直しに伴う関係条例の整理に関する条例の制定も、行政手続きのオンライン化に伴う変化の一つです。

今年度からは、役場に多く寄せられるお問合せについて、ウェブ上に自動で回答を表示するチャットボットを活用し、町民に対応できるようにしてまいります。

そのほかにも、町民等に対しまして、スマートフォンを活用して「えちぜんちょう割」や、ふるさとチョイス電子感謝券などの電子クーポンの配布、役場入口への自動検温装置の設置、役場ロビーのWi-Fi環境の整備などを行い、町民の利便性を向上させております。

また、各小・中学校においても、国が進めるGIGAスクール構想に基づき、各児童・生徒1人に1台のタブレットを配置し、ICTを活用した学習活動を遅滞なく進めているところです。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） 先日、行政のペーパーレス化や電子化が進んでいる越前市にお邪魔して、話を聞いてまいりました。越前市は、今回の行政DX推進以前の平成29年から会議のペーパーレス化や、業務資料のデータ保存やシステム管理を進め、現在では、議会を含めた会議のほとんどをペーパーレスで行い、リモートによる会議参加も増え、職員のテレワークも進んでいるそうです。

そして、その効果を検証すると、ペーパーレス会議システム導入に関することだけでも紙の削減数が数十万枚で、システムに係る経費を差し引いても年間数百万円の経費が削減でき、職員経費としても、紙資料作成の作業時間の削減が年間数百時間、金額においても数百万円が削減されているそうです。

越前町も、これから人口減少が進み、財政も厳しくなっていくことが予想されます。デジタル化を進め、経費や労力の削減に努め、行政サービスの提供が維持できるように努力していただきたいと思っております。町長の所見を求めます。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、時田議員のご質問にお答えをいたします。

当町におきましても、コロナ禍によりオンライン会議が増えてきております。

ペーパーレス会議につきましては、職員間の会議はもとより、予算査定や政策ヒアリングなどにおいてもペーパーレス化を進めてまいります。また、印刷経費や職員経費など、ペーパーレス化に伴う効果について調査し、今後の取組みに生かしてまいります。

次に、議会の資料などにおいても、ペーパーレス化を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力のほど、よろしく願いをいたします。

DX時代と呼ばれている昨今、誰一人取り残すことのない人に優しいデジタル化を推進する必要は十分認識しております。全国で導入が求められ、業務の標準化がされるものについては、先ほどの総務理事の答弁のとおり、遅滞なく進めてまいります。

一方、DX推進による効率化が進む反面、システム保守料等の増加が予想されます。町単独のシステムの導入に当たっては、保守料等の増加、それによりもたらされる効果など十分に見極めながら、限られた財源の中で導入を検討してまいり

ます。

以上でございます。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） DX推進といいましても、なかなか簡単に進むことではないと思っております。

先ほどお話に出てまいりました越前市など先進市町への視察を行ったり、民間ですと福井銀行が、県内全ての市町とDXワーキンググループというものを開催して、情報交換などを行っているというふうに聞いております。ぜひそういうところにも参加して、進めていただけたらと思っております。

次に、結婚・出産・子育て支援について質問をさせていただきます。

越前町は、今年度より新規事業として、新婚世帯の負担を軽減するために、住宅取得などの夫婦支援事業を実施しております。

第二次越前町総合振興計画の中でも、安心して結婚、移住・定住できる環境づくりという項目の中で、結婚・出産しやすい環境と交流機会の創出という目標が示され、施策の展開方針として、1、出会い・結婚を支援する、2、子どもを産み育てやすい環境をつくとありますが、具体的にはどのような施策が取られているのでしょうか。

○議長（笠原秀樹君） 民生理事。

○民生理事（山口隆司君） それでは、時田議員のご質問にお答えします。

まず、出会いを支援する施策としまして、縁結び奨励金事業がございます。この事業は、独身者に対して結婚と定住に至るお世話をした縁結びお世話人の方に対して、奨励金5万円を交付するものです。

また、若者出会い交流応援事業がございます。この事業は、若者の結婚推進と定住促進のため、独身男女の出会い・交流を促進する事業を実施する団体に対して、1事業につき最大20万円の補助金を交付するものです。

次に、結婚を支援する施策としまして、時田議員のご質問の中にありましたように、本年度から結婚新生活支援事業を実施しております。この事業は、年齢、所得等の制限はございますが、新婚世帯の経済的負担を軽減するために、住宅取得費、住宅リフォーム費及び住宅賃借に対して最大30万円の支援を行うものです。

また、結婚祝品支給事業として、年齢や所得に関係なく、ご結婚された町民に対して、商品券2万円分を祝品として進呈しております。

次に、子どもを産み育てやすい環境をつくる施策としまして、出産祝金支給事業がございます。この事業は、出産に対し祝金を支給するもので、昨年度から事業を拡充し、第3子のみ5万円の支給であった制度を第1子、第2子は3万円、第3子以降は30万円を支給しています。

また、妊婦及び乳幼児の保護者に対しては、子育て支援アプリ「えちぜんっこアプリ」を活用し、各種教室や健診等の情報を提供するほか、町内5か所の子育て支援センターでは、子育てに関する相談を受けたり、親子が遊べる場所を提供したり、保護者の情報交換や仲間づくりを支援しています。

その他、子どもや母親がより健康的な生活を送れるように、各種健診・相談・教室などを行う母子保健事業、感染症予防のための予防接種事業、不妊に悩むご夫婦への支援として特定不妊治療費助成事業、気がかりな子どもに対しての発達相談支援事業などを実施し、子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組んでいます。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） 子どもを産み育てやすい環境をつくるという点においては、越前町は非常に素晴らしいところだと聞いております。しかしながら、出会い・結婚を支援するという点では、具体的な施策がなされていないと感じています。

先日6月3日ですが、厚生労働省の人口動態統計概数が発表されました。それによると、2021年生まれの子どもは全国で81万1,604人、福井県では5,223人と、いずれも過去最少の数字となっています。越前町は119人と、過去最少ではないものの、ほぼそれに近い数字です。

国は、出生数の減少の原因は、未婚化や晩婚化が進んでいることが大きいとしています。ちなみに、2021年の婚姻件数は全国で50万組、福井県では2,821組、越前町は64組となっており、平均初婚年齢は夫31.0歳、妻29.5歳だそうです。

このような状況の中、町が出会い・結婚を支援するという事は、非常に大事な事だと考えます。

実は私も、町の縁結びお世話人をさせていただいておりますが、今の時代、なかなか若者同士が出会える場が少ないと感じています。若者出会い・交流応援事業といっても、そのような企画は最近行われておりません。

そこで、行政サイドとして、もっと幅を広げて考えていただけないでしょうか。

例えば、本年、各コミュニティ運営委員会に、若者を対象とした企画の予算がつけられています。その活動にあまり制限をつけずに、自由に若者たちが集い、楽しめる企画をつくってもらったり、町の祭りなどの運営協力や参加を求めたり、各種スポーツや文化のイベントにもっと若者同士の参加を求めたりしながら、その予算も弾力的に運用して使えるようにしていただけないでしょうか。町長の所見を求めます。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

近年、結婚に対する価値観が変化してきたことがしばしば指摘されております。今後も少子化が見込まれる中、人口を維持させるための重要な施策の一つとして、結婚を促すための出会いづくりに関する取組み、特に若い人の結婚に対する意識を高める取組みについては、充実させる必要があると考えております。

各コミュニティ運営委員会の本年度予算の中に、若者を対象とした企画の予算が4地区で100万円ございますが、その予算につきましては、特段の制約を設けておりません。若者同士が集うイベントや地域の人が集う場への参加など、様々な場面で若者が交流する機会があると思っておりますので、ぜひそのような事業にも活用していただければと考えております。

内容につきましては、各コミュニティ運営委員会でご検討いただき、若い世代のために有効に活用していただきたいと思います。そして、その事業が、若者の出会いや結婚へのきっかけになることを強く期待しているところでございます。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） ありがとうございます。

これから越前町は、ますます人口減少が進んでいくと思われれます。それを少しでも食い止めるためには、若者の定住が不可欠です。今後のまちづくりについても、若者の意見を聞き、共に考えることが重要だと考えます。

これから、中高生、独身者、若い夫婦、子育て世代などと、町が直接意見を聞く場をぜひ設けていただきたいと思います。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 今後の町政発展や持続可能なまちづくりを考えたとき、若い世代の意見に耳を傾けることや、若い世代が町の行政や地域活動に参画する機会を増やすことは大変重要であることと考えております。

若い世代には、先例にとられない柔軟で自由な発想と、時代の変化に対応し体現できる力があります。町といたしましては、これまで総合振興計画の策定時や見直しの際に、丹生高校の生徒たちと意見交換を行ったり、町内の中高生を対象としたまちづくりに対する意識調査などを行ってまいりました。

また、越前町若者移住促進プロジェクトチームである「ココクルー」の皆さんや壮年会の皆さんと語る会などを開催したり、子育て関連の教室開催時にはアンケート調査を実施し、子育て世代のご意見も聞かせていただいております。

先日、丹生高校中高一貫連携クラスの探究活動発表会があり、「越前町をより住みたくなる町にするためには」をテーマとした研究の成果をお聞きしたところ、今後の施策の参考となるすばらしい報告がございました。

このように、若い世代の方から直接ご意見をいただくとともに、アプリを使った事業やLINEを利用した情報発信なども行っております。また、若者のアイデアによる活動を支援するため、越前町若者夢おこし活動補助金の制度もございません。

越前町の将来を担う若い世代には、越前町に住み続けていただき、活躍していただく必要があります。若い世代が町の政策や地域活動に積極的に参画できるような環境を整え、さらに、機会を捉えて若い世代の皆さんと交流し、若者ならではの柔軟なアイデアを伺ってまいりたいと思います。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） 最後に、北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた越前町の取組みについてお聞きしたいと思います。

2024年春、いよいよ北陸新幹線金沢・敦賀間が開業されます。それに加え、アフターコロナ、また円安によるインバウンドの回復が見込まれる中、越前町としては、どのような対応、準備を進めているのかお聞かせください。

○議長（笠原秀樹君） 産業理事。

○産業理事（水島博之君） 北陸新幹線福井県内開業に向けたこれまでの取組みでございますが、一つは、新幹線駅から二次交通手段の検討です。

議員もご承知のとおり、昨年度、福井県の補助を受け、JR福井駅と道の駅越前を結ぶ直行バスの運行実証を行いました。今年度も引き続き、運行方法などを見直した上、運行実証を行ってまいります。

また、町観光連盟においても、敦賀駅から直行ツアーバスを運行するとともに、タクシーやレンタカー利用者に対する補助を行っております。

次に、新幹線開業を見据えた事業者の取組支援として、昨年度と今年度の2か年において、民宿リニューアル補助を行っております。実績といたしましては、昨年度が2施設、今年度は4施設計画しております。

また、平成29年度と30年度には、宿泊業や飲食店の魅力創造につながる経営アドバイスや施設改修への支援を行い、2年間で18件の改善に取り組みしました。

多様化する消費者ニーズやインバウンド需要の取組対策としては、キャッシュレス決済システム導入業者への助成や集客セミナー、おもてなし研修会の実施、音声翻訳機の活用などを町観光連盟と連携し、取り組んでいます。

誘客に向けた広報宣伝といたしましては、都市部での観光商談会や出向宣伝に積

極的に参加してまいりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年以降は実施できておりませんが、それ以前は、東京や埼玉など北陸新幹線の発地において、福井県や県観光連盟が企画する出向宣伝に参加するとともに、越前町単独でも都内で越前町フェアを開催するなど、越前町のPRに取り組んでまいりました。

このほか、観光ポスターのイメージ刷新や町観光連盟ホームページのリニューアル、プロモーション動画の作成、さらには、若い方やインバウンド向けの誘客手段として、フェイスブックやインスタグラムなどを積極的に活用し、越前町の魅力発信と観光誘客に努めております。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） 第二次越前町総合振興計画の中でも、北陸新幹線福井開業を見据え、観光立町に向けた施策を戦略的に進めますとあります。観光連盟や地元関連業者の皆さんの意見を聞き、話し合いながら越前町の魅力を発信し、少しでも多くの観光客が来ていただけるような施策を講じていただきたいと思っております。

しかしながら、全国への発信や新幹線駅からの二次交通の問題など、町単独では解決が難しい問題も多くあります。ぜひ福井県と連携を取りながら、この100年に一度のチャンスを生かしていきましょう。町長の所見を求めます。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

令和6年春の北陸新幹線県内開業まで、いよいよ2年を切りました。本年3月には、北陸新幹線開業2年前イベントとして、県内新幹線駅の所在地と周辺市町が共同したイベントが催され、新幹線開業に向けた機運醸成が図られています。

これまで、町や町観光連盟においては、観光施設の整備や観光素材の充実、それらの素材を生かした誘客戦略の展開など、ハード・ソフトの両面にわたり様々な施策を実施し、観光へのでこ入れを行ってまいりました。それらを踏まえ、新幹線開業という好機を逃さないためには、これまでとは違う角度からの取組みも必要ではないかと思っております。

先般、越前地区の民間事業者において、集客力確保につながる先駆的な事業を企画し、県観光連盟の補助採択を受け、間もなく事業がスタートすると伺っております。このように、事業者自らが誘客に向けたアイデアを創造し、自主的・主体的に取り組んでいただくことが重要であり、私は、そういった民間の活力ある取組みに期待をしております。

町といたしましても、事業者の皆様による積極的なアイデアの実現に向けて、しっかりと後押しをし、本町への誘客につなげてまいりたいと考えております。

また、新幹線駅から本町への二次交通対策も重要な課題でございます。先ほど理事の答弁にもありましたが、現在、福井駅から本町への直行バスの運行実証を行っており、敦賀駅からは町観光連盟がツアーバスを運行しております。

福井駅からの運行実証では、バスの停車箇所が少ない、直行バスの運行自体が知られていないなどのご意見がございました。今年度の運行実証は、そういった意見を参考に、都市部での認知度向上や停車箇所の増設など利便性の改善を図り、今後の運行に向けた検証を進めてまいります。

また、敦賀駅からの直行ツアーバスは、関西・中京方面から越前海岸への旅行者の足として活用され、コロナ禍前には、カニシーズン3か月間の運行で1,500人の利用がございました。

しかしながら、2つの路線とも、多額の運行費用の町負担という大きな課題もご

ございますので、今後の持続可能なバス運行に向けて、沿線市町や関係団体と協議をしていくとともに、県による運行支援を働きかけてまいりたいと考えております。

一方、バス以外の二次交通対策といたしまして、現在、町観光連盟において、タクシーやレンタカー利用者に対する助成を行っております。助成件数も伸びておりますので、新幹線開業に向けて、事業費の増額や助成内容の充実などを検討してまいります。

また、議員もご指摘のとおり、本町単独の取組みだけでは解決が困難なこともございます。例えば、丹南地域の玄関口となる越前武生駅から本町へのアクセス向上には、国道365号の道路改良が不可欠であり、県や越前市と連携した取組みが重要であります。

いずれにいたしましても、北陸新幹線県内開業という絶好の機会を逃すことなく、官民一体となった取組みを推進するとともに、県や丹南市町、関係機関と十分に連携し、協働し、観光誘客を図ってまいりたいと考えておりますので、議員におかれましてもご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 時田和一良君。

○2番（時田和一良君） 私は、新幹線開業後、越前町にとって最重要となる駅は、敦賀駅だと考えております。新幹線の終点であり、関西・中京圏からの特急列車の終点でもあります。どこから来た乗客も、必ず敦賀駅で乗換えをしなければなりません。

嶺南の市と嶺北の町を結ぶことは、容易ではないことは重々承知しております。しかしながら、南越前町や福井市などと連携を取りながら、県と話を進めていただければと思っております。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（午前11時02分 終了）